



首都圏
自然歩道

関東ふれあいの道

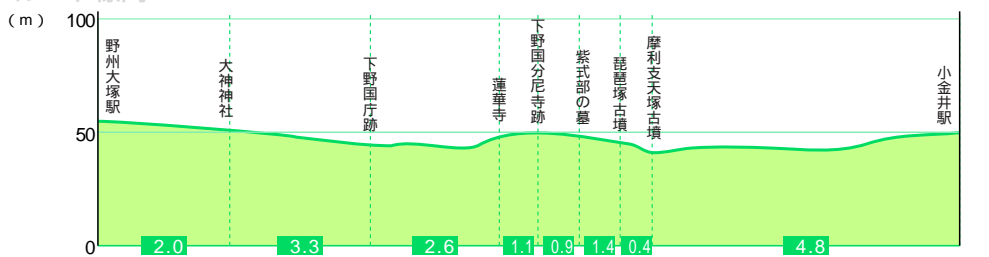
栃木県

14 風土記のみち 17.5km

野州大塚駅を出発するとまもなく「室の八島」で有名な大神（おおみわ）神社に着きます。さらに田園風景の中を南に歩いていくと下野国庁跡に着きます。ここから北に戻り県道を東に進み思川を渡ると蓮華寺です。雑木林の小道を歩き、県道を渡って更に行くと下野国分寺跡です。近くには下野国分尼寺跡もあり、しもつけ風土記の丘資料館には出土品が展示されています。

琵琶塚古墳、摩利支天塚（まりしてんづか）古墳を見て、東に進み、姿川サイクリングロードを經由して更に東に進むと小金井駅に到着します。

ルート標高



踏破認定撮影ポイント



まりしてんづか 摩利支天塚古墳 (摩利支天社)

全長 100m以上の前方後円墳で、県内最大、最古を誇ります。円筒埴輪などの出土品から 5世紀末から 6世紀初頭の築造と考えられています。

近くにある琵琶塚古墳とともに国指定史跡となっています。

コース周辺の見所



大神（おおみわ）神社

今から 1,800年前に建立され大和国三輪山の大三輪神社の分霊が祀られています。

別名「八島大明神」といわれ、境内に 8つの島があり八神が祀られており、「室の八島」と呼ばれ、「糸遊に結びつきたるけぶりかな」の松尾芭蕉の句碑があります。



蓮華寺

親鸞聖人の大蛇退治伝説が残る浄土真宗の古寺です。大蛇の生け贖にされる娘を上人が救った際、天から蓮華の花が降ってきたといわれており、救われた娘が草庵を建立したのが蓮花寺の始まりといわれています。



下野国庁跡

律令制下における地方統制の中核として、8世紀前半に建てられたと考えられています。昭和 54年の発掘調査により、宮延神社周辺が国庁跡であったことが判明しました。

現在では前殿のみが復元されており、北側にある「下野国庁跡資料館」で詳しい情報を得ることが出来ます。



下野国分寺跡

奈良時代天平 13年聖武天皇によって全国に国分寺が建立されましたが、律令体制の衰退とともに廃寺になったと考えられています。創建当時の伽藍地の規模は東西 216m、南北 252mであったと推定されています。



下野国分尼寺跡

下野国分寺と同年代に建立され、伽藍地の規模は東西 145m、南北 167mと推定されています。



下野国分尼寺跡 薄墨桜 (うすずみざくら)

薄墨桜は、ピンクのつぼみから淡白色の花が咲き、満開を過ぎると薄墨をかけたような色に変わることから名付けられました。

この桜は、岐阜県根尾村にある国の天然記念物に指定されている薄墨桜の実生苗を植えたものです。

問い合わせ

栃木県環境森林部自然環境課 自然公園担当

〒 320-8501 宇都宮市壩田 1-1-20

TEL 028-623-3206

栃木県県南環境森林事務所 環境企画課

〒 327-8503 佐野市堀米町 607

TEL 0283-23-1441

栃木市役所 道路管理課

〒 328-8686 栃木市入舟町 7-26

TEL 0282-21-2558

下野市役所 都市計画課

〒 329-0492 下野市小金井 1127

TEL 0285-48-2114